

「社会参画学習」を取り入れた伝統文化に関する授業開発 一切石ささらを教材として

B4E12025 金野崇史

はじめに

本論は、小学校四年生の社会科伝統・文化に関する学習において、よりよい社会の形成者の育成を目指した授業の開発を目的としている。教材として、秋田県能代市二ツ井町の切石ささらを取り上げる。

今日、社会科の学習に対しては、「社会科＝暗記教科」という認識が広く行き渡っている。このような認識を生み出してしまったのは、教師の授業構成や指導内容であろう。

では、そもそも社会科とはどのような教科なのか。本来、社会科は社会生活の理解を通して、国や地域に対する理解と愛情を育て、将来の社会形成者として児童の公民的資質の基礎を養うものである。この「将来の社会形成者」について、学習指導要領は次のように述べている¹。

「公民的資質」とは、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者すなわち市民・国民として行動する上で必要とされる資質を意味している。したがって、公民的資質は、平和で民主的な国家・社会形成者として自覚をもち、自他の人格を互いに尊重すること、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすることなどの態度や能力であると考えられる。こうした公民的資質は、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎をも含むものであると考えられる。

つまり「将来の社会形成者」とは、よりよい社会の形成に参画するための基礎的な資質や能力を持っている者である。今日、日本は少子高齢化、格差社会、諸外国との外交関係、原発存続の是非など多くの社会問題を抱えている。将来社会を担う児童たちはこのような諸問題に立ち向かっていかななくてはならない。課題が多いこれからの社会をよりよくしていくためには、児童には社会科で養った資質や能力を主体的に外部へ発揮させていくこと、つまり積極的に社会に参画することが必要である。

このよりよい社会の形成者の育成を目指した社会科の授業として、筆者は小学校三・四年生の地域の伝統・文化に関する単元を取り上げる。

伝統・文化を取り上げる理由は次の二つである。

一つは、日本各地域の伝統・文化が失われつつあるからである。近年、都市部への人口流入による地方の過疎化や人々と地域との関係の希薄化などによって、地方では様々な分野での後継者の確保と育成が困難になっている。地域に残る伝統・文化は先人たちの思いが込められた歴史の一部であり、貴重なものである。後継者不足によって、その伝統を絶やしては

¹ 文部科学省 2010 『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋出版社、p.12；但し、下線は引用者による。

ならない。

今一つは、現代の学校教育に必要なテーマとして取り上げられているからである。今後の学校教育には、地域社会との連携や体験活動の充実等が求められている。これらの課題は、地域の児童に身近な伝統・文化を取り上げた体験的な活動を通して達成することが可能である。よって、今後実践していくべきテーマとして、研究を深めていきたい。

平成二十年度版学習指導要領作成にあたって中央教育審議会が出した答申では、異なる文化をもつ人々と共存することのできる資質を育成するため、伝統や文化に関する学習を社会科で積極的に行うことが明記された²。

このような動向の中、小学校社会科において、歴史学習において伝統・文化に関する実践が徐々に行われるようになった。しかし、大畑健実によれば、その多くは地域の歴史や人物に関する知識の学習に止まっているこうした現状に対して大畑はあるべき伝統・文化の学習について次のように述べている³。

小学校社会科において、伝統・文化学習を実践するためには、伝統や文化に関する知識理解を深めるとともに文化自体が持つ価値や、現代生活の中でも生き続ける文化への愛情を育て、自己の生き方との関連の中で文化を発展させていくための学習が重要となる。そのためには、どのような教材を取りあげて内容を構成し、どう授業として展開すればよいのかという授業構成について明らかにすることが課題となる。

伝統・文化学習においては、地域の文化に対して、自己の文化として誇りと愛情を持つことが求められている。単に文化に関する知識を覚えるだけでは、その文化を育んできた社会の形成者を育成することにはつながらない。つまり、知識理解の学習に止まらず、態度形成、人間形成に役立つような発展的・創造的な学習に結び付けるべきであると大畑は述べているのである。

また、大畑は小学校社会科において伝統や文化を取りあげた授業実践事例を収集・分析し、その授業構成に見られる特性や課題を明らかにしたうえで、具体的な授業モデルを開発している。

しかし、大畑の授業モデルでは、社会の形成者を育成するには不十分である。大畑の授業プランは児童の人間形成・態度形成に止まっており、課題に対する具体的な方策を案出する場面が欠けているからである。大畑の授業モデルは総括として、地域の伝統芸能を継承・発展させるためのアイデアを児童に案出させ、保存会の方に提案するというものになっている。この授業モデルは児童に地域の伝統・文化に対する誇りや愛情を養うことはできよう。それによって、児童に社会をよりよくしようという態度を形成することはできるだろう。しかし、それを実行に移すための能力の育成には至っていないのである。

前述したとおり、今日の社会科の目標は「将来の社会形成者」に必要な公民的資質を養うことである。課題が多い将来の社会を担う児童には目の前の課題に立ち向かうための具体的な手法、解決法を見出す力も必要となる。したがって、地域の伝統・文化を継承・発展させる

² 文部科学省ホームページ 7、教育内容に関する主な改善事項（3月23日現在）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/07102505/003/008.htm

³ 大畑健実 2010 「小学校社会科における伝統・文化学習のモデル授業開発 一第6学年単元『室町文化』における態度形成を視点として」、社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第22号、p.91

ための方策を提案し、それを実現するためにどのような取り組みが出来るのかまで省察させる場面を授業プランに加えるべきである。

筆者は大畑の「創造的・発展的な学習へと結び付ける点」、また筆者が大畑の授業プランから欠けていると指摘した「課題の解決策の具体的な方策」を扱うという二点を授業開発に取り入れ、社会形成者の育成を目指した伝統・文化学習の開発を行う。さらに、二点を取り入れて社会形成者の育成を目指した伝統・文化学習の開発を行うために、吉田正生の「社会参画学習論」に着目した。

吉田の「社会参画学習論」とはどのようなものか、吉田は次のように述べている⁴。

社会科が育成すべき社会参画力を次のように定義した—それは「様々な社会的役割の担い手は、何をなすべきか・できるか・なすべきではないかを実施方策も含めて考え得る知識・技能・態度である。」

行為主体を公—共—商—私の各領域に求め、その行為主体がある社会問題解決のために（代替活動や新しい運動団体等の形成をも視野に入れて）何ができるか・すべきかを、そしてすべきでないかを学習者に考究させようとするものである。

社会の担い手として課題に対する実施方策を省察させることで、社会参画のための力を養うことができる。これにより、一層よりよい社会の形成者の育成につながるはずである。また、公—共—商—私の四つの圏域に立ってアイデアを考察させることで、より現実味のある方策を案出させることが可能である。ここで述べられている社会参画力や公—共—商—私などの、社会参画学習論に関する詳しい説明については後述する。筆者は吉田の社会参画学習論を地域の伝統・文化を継承・発展させるための方策を考察する場面に取り入れる。児童が提案したアイデアを公—共—商—私の四つの圏域に立って実施方策を考察させることで、課題解決能力の育成につながると考えるからである。

以上のことから本論では社会科において、伝統・文化に関する学習についてよりよい社会の形成者の育成を目指した授業開発を行う。そこで本論では、以下の三つのポイントから授業プランを開発する。

- (1) 地域の伝統・文化について理解を深め、自己の文化としての誇りと愛情を育成する
- (2) 伝統・文化を継承・発展させるため、課題を見つけ出し、解決するための提案について省察する力を育成する
- (3) 公—共—商—私の四観点から伝統・文化を継承・発展させるための方策を省察することができる力を育成する

以上、三つの基本方針を踏まえた授業プランを開発する。

そこで、本論を以下のように構成する。まず、これまでの伝統・文化に関する授業実践を分析し、問題点を明らかにする。そのうえで筆者の考える伝統・文化学習の必要性と結びつけ、本論の目指す授業像を明確にする（第I章）。次に、吉田の「社会参画学習」論を考察し、

⁴ 吉田正生 2013 「小学校社会科『社会参画学習』の授業プラン—ボランティアグループ『なずなの会』を教材として—、社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第25号、pp.11～16

伝統・文化の継承・発展を踏まえた授業モデルと関係づけて再構成する(第Ⅱ章)。その上で、筆者が教材として取りあげた切石ささらの概要について論述する(第Ⅲ章)。最後に、地域の伝統・文化を教材としたよりよい社会の形成者の育成を目指した、小学校中学年社会科の授業プランを開発する(第Ⅳ章)。

■ 論文の構成

はじめに

第Ⅰ章 伝統・文化学習の先行研究について

第一節 分析視点

第二節 分析基準と分析結果

第三節 先行研究・実践の分析を通して

第Ⅱ章 吉田の「社会参画学習」論について

第一節 「社会参画学習」論の概要

第二節 公―共―商―私の四つの圏域について

第三節 本論との関連

第四節 授業モデルの開発

第Ⅲ章 切石ささらの概要について

第一節 切石ささらを取り上げる理由

第二節 教材研究

第三節 切石ささらの現状

第Ⅳ章 授業プランの開発

第一節 教材研究

第二節 授業プランの開発

おわりに